

令和7年度
前期
入学試験問題
国語

注意事項

1. 試験問題は指示があるまで開かないでください。
2. 解答は必ず解答用紙に記入してください。
3. 字数制限のある問題は、句読点や符号も解答の字数に含みます。
4. 問題冊子・解答用紙に、受験番号と氏名を記入してください。
5. 問題冊子は必ず持ち帰ってください。

受験番号	氏	
	名	

近畿大学附属広島中学校東広島校

問題は次のページから始まります。

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の――線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

- ① ジュンイを決める。
- ② ショウライの夢を語る。
- ③ カチュウの栗くりを拾う。
- ④ ダンチョウの思いで諦あきらめる。
- ⑤ 税金を才さいめる。
- ⑥ 船が運河えんがを通る。
- ⑦ 弟子でしに落語を口伝する。
- ⑧ 木の幹を切る。

問二 次の表現の空欄 にあてはまる漢字一字を答えなさい。

① 大 晩成（大人物は世に出るまでに時間がかかるということ。）

② に腹は代えられぬ（切羽詰まった状況を突破するために、仕方なく物事を選択するということ。）

問三 次のことわざと似た意味を持つものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

嘘から出たまこと

ア 目から鱗

イ 身から出た錆

ウ 瓢箪から駒

エ 二階から目薬

問四 次の四字熟語の意味として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

針小棒大

ア すぐれたものやつまらないものが、入り混じっていること。

イ 人はそれぞれ好みや意見が異なっているということ。

ウ 細かい点に違いはあるが、だいたい同じであること。

エ 物事を実際より大げさに伝えてありのままに言わないこと。

二

次の【文章Ⅰ】・【文章Ⅱ】はともに田中修・丹治邦和『かぐわしき植物たちの秘密 香りとヒトの科学』の
節です。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

【文章Ⅰ】

サクラの原産地は、ヒマラヤから中国の南西部にかけての地域とされます。学名は「セラスス」と表示され、サクラ属を示します。サクラという名称の植物はなく、サクラ属の多くの品種の総称として使われているのです。

日本には、かなり古くに渡来しています。「サクラ」という名前の語源には、いろいろな説があります。真偽は定かではありませんが、わかりやすいのは、「咲く」に、接尾語の「ら」がついたとする説です。

春を象徴する和菓子^{わがし}の一つは、「桜餅」です。桜餅の葉からは、おいしそうな甘い^{あま}香りが漂^{ただよ}います。桜餅に「サクラの葉っぱ」を使う理由は、餅の乾燥^{かんそう}を防ぐ意味もありますが、やっぱり大切なのは、葉っぱから出る香りを味とともに楽しむためです。この香りは、私たちが^③フイトンチッドを暮らしに取り入れた一つの例です。

しかし、サクラの木に茂^{しげ}っている緑の葉をもぎ取って香りを嗅^かいでも、桜餅の葉の香りはしません。「桜餅には、葉に香りのある特別な種類のサクラが使われているのか」と思われます。桜餅に使われるのは、主にオオシマザクラの葉です。この葉は、大きくてやわらかく、そして、強い香りを出すからです。ところが、オオシマザクラの葉も、木に茂っている緑の葉はあの香りを出しません。葉を塩漬^{しおづけ}けにしておくと、あの香りが出てくるのです。

あの香りは、オオシマザクラでなくても、どんなサクラの葉からも出ます。ソメイヨシノの葉からも、塩漬けにすれば、あの香りは出るのですが、葉が硬^{かた}いので、桜餅にして葉を食べるとき、おいしくないので使われません。ソメイヨシノは、花の美しさを目で楽しませ、オオシマザクラは、鼻で香りを楽しませてくれているのです。

① 桜餅のいいしそうな香りの成分は、「クマリン」という物質です。クマリンができる前の物質が緑の葉には含まれます。でも、その物質には香りはありません。葉には、もう一つの物質が含まれます。それには、クマリンができる前の物質をクマリンに変える働きがあります。しかし、緑の葉の中では、二つの物質は接触しないようになっていきます。そのため、クマリンの香りは発生しません。

塩漬けにして葉が死んでしまうと、これらの二つの物質が出会って反応します。その結果、クマリンができて、香りが漂ってくるのです。葉を塩漬けにしなくても、手でよく揉んでモミクチャにしておくと、クマリンのかすかな香りが漂いはじめます。葉が傷ついて、二つの物質が接触することになるからです。

葉が傷つくとクマリンの香りが漂うのは、葉が虫に食べられることへの防御反応です。葉を食べようと傷をつけた虫には、クマリンの香りは嫌な香りなのです。だから、あの香りはかじられた葉から出ますが、虫にかじられていない葉からは漂う必要がないのです。この香りには、菌の増殖を防ぐ効果（抗菌作用）もあり、虫にかじられた傷口からの菌の侵入を防ぐと考えられます。

「桜餅の葉っぱは食べてもいいのか」との疑問がもたれることがあります。個人差があるのですが、ふつうには、「食べようと思えば、1、2枚であれば食べても問題ない」といわれます。

少し塩辛い味がありますが、桜餅の甘みと混ざり、おいしく感じられます。クマリンについては、「摂取すると、20〜30分後には血中に取り込まれ、その後、尿として排出される」といわれています。

1882年に、人工合成されたクマリンが開発されました。フランスのウビガン社は、この合成されたクマリンを使って、香水「フジエール・ロワイヤル」をつくりました。これが人工合成香料を使った初めての香水といわれます。これは、たちまち大人気となり、この香水をきっかけにして、人工香料を使った多くの香水がつくられています。

桜餅の葉っぱは、前述のように、1、2枚程度なら食べても問題ないといわれていますが、大量にクマリンを摂取す

ると肝臓かんぞうに対する毒性があるのです。そのため、クマリンは食品添加物てんかぶつとしては認められていません。逆に、クマリンのこの毒性効果を利用して「薬」がつくられています。クマリンは、香り以外にも、私たちのからだの役に立っています。に対して「クマリンの誘導体ゆうどうたい」が薬として使われています。「ワーファリン」あるいは「ワルファリン」という名前で知られています。

A、「脳梗塞」「エコノミークラス症候群しやうこうぐん」や「心筋梗塞」など血液が固まることで引き起こされる病気に対して「クマリンの誘導体ゆうどうたい」が薬として使われています。「ワーファリン」あるいは「ワルファリン」という名前で知られています。

この薬は、血液が固まることを防ぎ、サラサラにします。不整脈などの人のからだの中で、血液が瞬間的しゅんかんてきに固まって、血栓けっせんができるのを防ぐために服用するものです。血栓ができると、脳梗塞などの原因になるからです。サクラの葉っぱがまだ緑色をしている初秋に、「数日間、雨が降り続いたあとの雨上がりの日、サクラ並木を自転車で走っていると、桜餅の香りであるクマリンがほのかに漂ってくる」という現象に出会うことがあります。

B、サクラの緑の葉っぱに数日間、雨が当たっても、桜餅の香り、すなわち、クマリンの香りが漂うことはありません。では、なぜ、雨あがりのサクラ並木で、桜餅の香りがするのでしょうか。

その原因は、サクラ並木のサクラの木の根元付近にたまっている、サクラの古い落ち葉です。古い落ち葉は死んでしまっているのです、桜餅の香りがほのかにします。晴れの日が続いていると、落ち葉はカラカラに乾かわいて水気を含んでいません。そのため、香りはほとんどしません。数日間雨が降ると、たつぷり水を吸った落ち葉から、桜餅の香りがかすかに漂ってきます。

これは容易に確かめることができます。雨あがりの日、サクラの木の根元付近にある、水気をたつぷりと含んだサクラの古い落ち葉を一枚、そっと拾い上げて、香りを嗅かいでみてください。桜餅の香りがほのかに漂ってきます。

多くの植物の葉っぱは、秋に枯かれ落ちます。そんな光景を見ると、さびしい気持ちになり、葉っぱの命のはかなさを感じます。しかし、葉っぱはもの悲しく寂さびしい気持ちで生涯しやうがいを終わるわけではありません。親株のまわりに落ち、枯れ

葉や落ち葉になっても、虫に食べられて糞ふんになつて土を肥やしたり、微生物びせいぶつに分解されて土に返り、「腐葉土ふようど」の素材となつたりします。腐葉土とは、文字どおり、落ち葉が腐くさつて肥やしとなる土です。落ち葉は、土に返り、若葉が育つ糧かてになるのです。

② サクラの枯れ葉は、それだけではありません。親株の根元付近に落ち、虫の嫌がる香りを放ち、親とそこについている葉っぱを虫から守っているのです。腐葉土になるギリギリまで、枯れ葉は香りを放っているのです。

サクラの香りは、自分のからだを虫から守り、傷口からの菌の侵入を防ぎ、人間の健康にも貢献こうけんし、腐葉土になるギリギリまで、親とそこについている葉っぱを守っているのです。香りは、^③「ただものではない」との思いを強くせずにはいられません。

【文章Ⅱ】（あとがきの一部）

植物たちは、私たちの心を支える存在でもあります。^④古くから、私たちは、共に心こゝろを寄り添よそわせて生きてきました。幸せな出来事があれば、花を飾かざつて共に喜びを分かち合い、悲しい出来事があれば、花を供えて耐たえてきています。このように「植物たちが、私たちの生活のすべてを支えている」といつても言いすぎにならないほど、^⑤私たちは植物たちの恩恵おんけいにあずかつて生きています。植物たちの存在がなくては、私たち人間の存在は成り立ちません。だからこそ、「21世紀は、私たち人間と植物たちとの共存・共生の時代」といわれるのです。

(注)

誘導体

血栓

問

A

B

にあてはまることばとして最も適当なものを、

つ選び、記号で答えなさい。

ア
し
か
も

イ
し
か
し

ウ
そして

工
た
と
え
ば

オ
なぜなら

問

1

線部①

「桜餅」

の
お
い

しそうち

な香りの

の成分は

は、
ク

マリン

『とい』

つ物質で

「す」

とあります

すが、

虫にか

じられ

たサクラの葉がクマリンの香

倉りを出すのは何のためですか

五十字以内で説明しなさい。

〈下書き〉

[illegible]

問四 — 線部③ 「香りは、ただものではない」との思いを強くせずにはいられません」とありますが、ここで筆者が感じていることとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア サクラが自分の香りを利用して、他の生物を引きつけ惑わせようとしていることに気づき、恐怖を感じている。

イ 虫や菌などの外敵から自分のからだを守るだけでなく、人間の生活にも貢献するサクラの香りの多様な働きに感心している。

ウ 自分のからだのために発しているものが、植物や人間にも影響を与えするというサクラの香りの予想外の進化に驚いている。

エ サクラの香りが自分のからだを守るだけではなく、他の植物や人間などの役に立っていることを知り、戸惑っている。

問五 — 線部④ 「古くから、私たちは、共に心を寄り添わせて生きてきました」とありますが、私たちが植物に心を寄り添わせていることがわかる連続した二文を、【文章Ⅰ】から抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問六 次に示すのは、――線部⑤「私たちは植物たちの恩恵にあずかって生きています」に関する「メモ」です。
空欄に入る言葉を、十五字以内で答えなさい。

〔メモ〕〔文章I〕より

○ 香りの恩恵

おいしそうな甘い香りが漂う桜餅を食べる。

○ 香り以外の恩恵

として使われている。

〈下書き〉

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問七 本文の内容として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本では「咲く」時に放つ香りが人々の心をとらえた植物を、サクラと呼ぶようになった。

イ 桜餅に使われるソメイヨシノとオシマザクラの葉は、硬さも香りも似通っている。

ウ 人工合成されたクマリンが開発されたことで、人工香料を使った香水が作られるようになった。

エ サクラの枯れ葉は、腐葉土になった後も虫の嫌がる香りを放ち続けている。

三

第二次世界大戦中、日本は食糧難に陥っていた。主人公の「トット」は母親から一日分の食料として大豆が入った封筒を渡され、登校した。以下の文章はこれに続く場面です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

授業を受けていると、お昼ごろに空襲警報のサイレンが鳴った。トットたちは、校庭のすみっこにある防空壕に避難した。防空壕の入り口を閉めると、中はまっ暗になってしまう。最初のうちは体を丸めてたけど、なにもすることがないから、小さな声でお話をして時間をつぶした。

「アイスクリームを食べたことがある」とだれかが言つて、トットも「私も」と言つた。なかなか警報解除のサイレンが鳴ってくれない。まっ暗な防空壕の中では、どうしても大豆のことを考えてしまう。

トットは我慢ができなくなつて、ポケットから封筒を取り出すと、一気に二つぶ、落とさないように注意しながら口にねじこんだ。

①「ボリ、ボリボリ」

いまずぐに、残りぜんぶを食べたくなつた。でも、もしいまこれを食べてしまつたら、家に帰ってから、なにも食べるものがなくなつてしまう。

「がまん、がまん……」

そう思いながら、トットは考えた。

「私はいま、大豆を十つぶ持っている。ひよつとしたら、もうすぐ、この防空壕に爆弾が落ちて、みんな死んでしまうかもしれない。だったら、いま食べたほうがいいかもしれない」

「でも、防空壕には爆弾が落ちなくても、家が空襲で焼けてしまつて、帰つたらパパもママも死んでしまっているかもしれない。そうなつたらどうしよう。やっぱり残りの十つぶは、いまのうちに食べてしまつたほうがいいのかなあ」

ぐるぐる、ぐるぐる、いろんなことを考えていると、トットは悲しくなってきた。

「家が焼けていないといいけど」

そう思いながら二つぶ食べた。

しばらくすると、「空襲警報解除」を知らせる声が聞こえてきて、トットたちはやつのことで、防空壕から出ることができた。

「今日はもうこれで終わりです。帰っていいです」

先生にそう言われたけど、家が近づくにつれて焼けていないかが心配になってきた。でも、朝、出たときのままの家が見えてきて、ひと安心。

「ああ、よかった。家は燃えていないし、ママたちは生きている。それに、大豆もまだ八つぶ残っている」

② トットは、ほっと胸をなでおろした。

おなががすぎすぎて眠れないときは、夢の献立を絵に描いて遊んだ。^(W) この遊びはママが発明したもので、食べたいごちそうの絵を描いて、「いただきます」「もぐもぐ」「おかわり」なんて言いながら、食べるマネをする。あまい卵焼きや焼いたお肉の絵を描いて、「もぐもぐ」をくり返していた。

配給は海藻^{かいそうめん}麺とかいうものになってきた。海辺に打ち上げられた厚い昆布^{こんぶ}を粉にして、こんにやくを、うどんのように長く伸ばしたものに混ぜこんだのが海藻^{かいそうめん}麺だ。なんか、カエルの卵みたいでやだったけど、仕方がない。もう調味料もなくなってきたので、ただお湯でゆでて、カエルの卵をズルズルとするのだった。

冬の日曜日。トットは、小さいころから通っている洗足^{せんぞく}教会の日曜学校に出かけた。しとしと雨が降っていて、とても寒い朝だった。いつものように「寒いし、眠いし、おなががすいた」とつぶやきながら歩いていたら、この言葉を口ずさみさえすれば、遠足かなにかをしている気分になった。

風がビュービューと音を立てている。涙が少し出ていたかもしれない。トットは、とても変な顔をしていたんだと思う。

「おい、こら」

突然、おまわりさんに呼び止められた。

「おまえ、なんで泣いてるんだ？」

トットは手で涙をぬぐいながら、

「寒いからです」

と答えた。するとおまわりさんは叫んだ。

「戦地の兵隊さんのことを考えてみろ！ 寒いぐらいで泣いていてどうする。そんなことで泣くな！」

あまりの怒りようにトットはびつくりしたけど、「そうか、戦争のときは泣いてもいけないんだ」と思った。

「叱られるのは、やだ。泣くことも許されないのが戦争なんだ。寒くて、眠くて、おなががすいても、泣かないでいましょう。だって、兵隊さんはもっともつとつらいんだから」

③それが、トットにできる精いっぱいのことだった。

町のあちこちで長い行列を見かけられるようになった。品物が店に入荷したとわかると、あつという間に行列ができる。なにを売っているのかは

B

の次で、とにかく並んでおかなくてはと考えて、みんな行列をつくるのだった。

「ようやく自分の番が来たと思って喜んだら、お葬式の焼香の列だったの」

④いつだったか、ママがそんな落語みたいな話を聞かせてくれた。それを聞いたトットも「アハハハ」と声を出して笑った。そのころは、まだお店にも少しは売れるものがあって、ママたちにも、失敗を笑い話に変えられる余裕があったのかもしれない。

そんなころの、自由ヶ丘駅前での出来事だ。

② トモ工学園からの帰り道、電車に乗ろうとして駅前まで歩いてきたら、戦地に赴く兵隊さんが家族や町内の人たちに見送られて、出征の挨拶をしていた。

「そうか、あの人は戦争に行くんだ」

このときはまだ、トットのパパも身近な人も兵隊に取られてはいなかった。だから、そこにいる人たちの気持ちを想像するのはむずかしかったけど、みんな自分の気持ちを押し殺しているような気がした。

「この旗を振ってね」

はじめての光景を眺めていたトットの目の前に、日の丸の小旗と、こんがり焼けたスルメの足が一本差し出された。見上げると、知らない男の人がトットに向かって微笑んでいる。

「なんだろう？ 旗を振れば、スルメをもらえるのかな」

もちろんこのときも、おなががペコペコだったから、トットは思わずスルメと日の丸を手にとった。

ママからはずっと「知らない人から、ものをもらってはいけません」と教わっていたけど、おなががすすすぎて、スルメの誘惑には勝てなかった。まわりを見ると、大人も子どもも兵隊さんに向かって「バンザイ！」と叫びながら、旗を振っている。

「やっぱり。スルメは旗を振るともらえるお駄賃なんだ」

トットはそう思って、まわりの人といっしょに「バンザイ！」を叫び、一生懸命に小旗を振った。

やがて、見送りの儀式がひと通り終わり、兵隊さんは駅の中に消えていった。旗を振っていた人たちも、みんな駅前から去っていった。

③ まわりに人がいなくなったのを見計らって、トットはスルメの足を口につっこんだ。

この出来事があつてから、トットは兵隊さんの出征式を心待ちにするようになった。トモ工学園は自由ヶ丘駅から目と鼻の先にある。授業中でも、駅のほうから兵隊さんを見送る「バンザーイ！」が聞こえてくると、トットはそっと教室を抜け出して、駅をめぐって走り出した。トモ工はとても自由な校風だったから、勝手に教室を抜け出しても、とくに怒られることはなかった。

トットは出征する兵隊さんのために、一生懸命日の丸の旗を振った。そのたびにスルメの足をもらっては、夢中になつてそれをしゃぶった。

ところがあるときから、いくら旗を振ってもスルメがもらえなくなつた。食料不足の波は、出征兵士を送る儀式にまで押し寄せてきたのだ。教室を抜け出して旗を振りにいってもスルメをもらえないとわかつてから、トットはとつてもがっかりして、出征式に行くのをやめてしまった。

でも、お駄賃代わりのスルメの味は、トットの記憶にずっと残ることになつた。

トットのパパは、昭和十九年の秋の終わりに、北支（いまの中国の華北地方）に出征した。敗戦後はずっとシベリアの捕虜収容所に抑留されていて、昭和二十四年の暮れに、トットたちが暮らす北千束の家に帰ってきた。アメリカの話をしてくれた田口の伯父さまをはじめ、たくさん大好きな人たちが、兵隊さんになつて戦地に向かった。

戦争が終わると、帰ってきた兵隊さんも、帰らなかった兵隊さんもいた。戦争中はよくわからなかったけど、戦争が終わり、スルメをもらつて万歳をするのは、けつしてやつてはならないことだと知つた。

（黒柳徹子『続 窓ぎわのトットちゃん』による）

（注） トモ工学園——一九三七年創立の私立自由ヶ丘小学校・幼稚園。

問一

空欄

A

・

B

にあてはまることばとして最も適当なものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A

ア 眉まゆ

イ 息

ウ 肩かた

エ 涙なみだ

B

ア 二

イ 四

ウ 百

エ 千

問二

線部①「ポリ、ポリポリ」とありますが、ここから「トット」のどのような様子がわかりますか。最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 空襲くうしゅうから身を守るために防空壕ぼうくわうで過ごすなかで空腹を抑おさえることができなくなり、母親から与あたえられた数少ない大豆を大切に食べている様子。

イ 空襲のせいですつと防空壕で過ごすさなければならぬ不安な気持ちを、大切な大豆をゆっくりかみしめて食べることで紛まぎらわそうとしている様子。

ウ 空襲警報がなかなか解除されず退屈たいくつな状況じょうきょうにあっても持ち前の明るさを失わず、大豆を食べる音を立てることでみんなを楽しませようとしている様子。

工 空襲警報が鳴り防空壕に逃げ込んでいる状況の中で、大豆のことで頭がいっぱいになり、周囲をまったく気にせずひたすら食べている様子。

問三——線部②「トットは、ほつと胸をなでおろした」とありますが、ここから「トット」のどのような気持ちかわかりますか。六十字以内で説明しなさい。

〈下書き〉

[illegible]

内で説明しなさい。

〈下書わ〉

[illegible]

問五 — 線部④ 「お駄賃^{だちん}代わりのスルメの味は、トットの記憶^{きおく}にずっと残ることになった」とありますが、どうし

てですか。最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大豆しか食べられないような戦時中に、貴重なスルメを食べることができたことはトットにとって唯一^{ゆいいつ}の幸せな思い出であつたから。

イ スルメがもらえなくなると出征^{しゅっせい}式に行くのをやめてしまったことが、戦地に行く兵隊さんのことを考えない行動だと深く反省していたから。

ウ 戦争が激しくなるにつれてスルメがもらえなくなった経験を通して、戦争や貧しさが人の心に大きな傷^{あた}を与えることを実感したから。

エ スルメをもらうために万歳^{ばんざい}をしたことが、兵隊さんが戦争から帰ってこなかったことと結びついていると気づき、後悔^{こうかい}することになったから。

問六

〓 線部①②の表現の説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 〓 線部③「夢の献立^{こんだて}を絵に描^かいて遊んだ」という表現から、戦争によつて食糧^{しょくりょう}事情が悪化しているのに、それにまったく気づかず無邪気^{むじゃき}にふるまうトットの姿が読み取れる。

イ 〓 線部④「おまえ、なんで泣いてるんだ？」という表現から、人々の心に余裕^{よゆう}がなくなっていくなかで、幼い子どもの成長を見守る「おまわりさん」の優しさ^{やさ}が読み取れる。

ウ 〓 線部⑤「ママがそんな落語みたいな話を聞かせてくれた」という表現から、戦時中であつても文化的な教育を大切にしようとするトットの家庭環境^{かんきやう}が読み取れる。

エ 〓 線部⑥「まわりに人がいなくなったのを見計らつて」という表現から、戦時中で食糧難のなか、スルメを堂々と食べることをためらうトットの様子が読み取れる。

問七 次に示すのは本文を読んだ生徒たちの会話です。これを読んで会話文中の空欄

にあてはまる表現

を、本文中から二十四字で抜き出し、最初の五字を答えなさい。

生徒A——最後の部分に「戦争中はよくわからなかったけど」とあるように、この作品は大人になった作者が子

どものころを振り返って書いているんだね。

生徒B——トットは多感な少女だったから「よくわからない」と言いながらも、戦争中の人々の様子から何かを

察していたよね。

生徒C——自由ヶ丘駅前では、周りの人たちを見て「」と感じていたね。

生徒A——戦争が人々の心にどんな影響を与えるのかがよくわかる表現だね。

生徒B——トット自身も感じるものがあつたんだろうね。

生徒C——そうだね。だからこの部分には「スルメ味の戦争責任」という小見出しが付いているんだよ。

